

## (有)山田パター工房

# 日米首脳会談でオバマ大統領にプレゼント。 夢は、手づくりパターとパッティング理論で ゴルフ殿堂入り

今年2月、「メイド・イン・山形」のゴルフパターが、米ワシントンで開かれた日米首脳会談で、安倍晋三首相からはオバマ大統領に贈られた。製造したのは山形市の(有)山田パター工房代表山田透氏。本県発の優れた製品が、日米トップの絆を強めるアイテムとして大きな役割を果たした。首相からは「不動心」の色紙を添え感謝が寄せられた。今、工房には世界中から注文が殺到している。高精度の製造技術や理論を駆使して仕上げられる山田代表のパターづくりへのアプローチと独自のパッティング理論を紹介する。

ひらめきは朝起きた瞬間。常に「命題」を設定し、どう「解」を得るかを考えている。雑念が入らない夢の中で反すうされ、残ったものが「解」への導きなのだと思ふ。忘れて良いものは消去される。

### 「55」ストロークを実現

山田パター工房のホームページに2013年3月15日付で断り書きが掲示された。「誠に申し訳御座いませんが現在戴いているご注文を全て納品させて戴くまで当分の間販売を休止させて戴きます」。

オーダーが怒とうのようにHPに寄せられ始めたのは、オーストラリアのライン・ギブソン選手が2012年5月世界最小スコアの55ストロークをマーク、ギネスレコードに認定されたニュース。以来、アメリカ、ドイツ、フランス、オーストラリア、台湾、シンガポール等々海外からも注文が相次ぎ、2000本を超えるオーダーを抱えている。全てが手づくり。待ってもらはうほかはない。

### 外務省から1本の電話

そして、2013年2月18日午後、

外務省から工房に電話が入った。都内で山田工房製パターを扱うショップを尋ねる内容で、米国への贈り物であること、左利き用であること、先方からの希望である旨も伝えられた。都内のショップで左利き用の在庫がなかったため、急きよ工房にあったものを送った。これが大きく報道された日米首脳会談で安倍晋三首相のオバマ大統領へのプレゼントだった。

人と同じことをしたくない。学校の授業もなぜ同じように学ばなければならないのか。大人になったら、みんなそれぞれ違う道に進むのに…。

小学生の運動会では、みんなと一緒に走ればビリになることは決まっていたから、ヨーイドンの合図と同時に後ろに向かって走った。ポプラ社から出ていたエジソン、アインシュタイン、野口英世といった偉人の伝記シリーズに熱中した。運動は得意でなかった代わり算数・数学はよくできた。高校1、2年の全国一斉テストでは100点満点をとった6人の1人になった。しかし、数学の教師には敬遠された。授業で教わった公式ではなく自分で考



えたやり方で説いたのがカンにさわったらしい。

### 米国で運命的な出会い

高校卒業後、プロのジャズプレイヤーを目指して上京、代々木のルーツ音楽院でジャズギターを学んだ。さらに腕を磨くため、24歳で渡米した。そこでゴルフを覚え、1年でたちまちハンディ1となりミニツアーに出場した。そして運命的な出会いがあった。

ロスでショップで手にした『T・P・MLLS』のパターに衝撃を受けた。陶器のように滑らかで真っ黒なパター。こんな美しいパターがあるのか。ぞくぞくした。これなら自分でもつくってみたい、つくらなければ。その瞬間、パターづくりの世界に飛び込んだ。

33歳で帰国。単なるパターづくりの職人ではなく、プロゴルファーの技術や内面まで熟知した最高のパターづくりへの道が始まった。最初はコピーしながら勉強した。だれにも習わず、自分の手で削り出した。途中で機械を入れた。機



ライン・ギブソン選手がマークしたギネスレコードの認定書(写真左)。写真右はプログラミング技術を駆使したパター、「ボルゾフ」(左上)、「エンペラー・ツー」(左下)、「レジェンド・セブン」(右上)、「オールドマン」(右下)

械は自らプログラム設計し組んだ超精密な性能のマシニングセンター・マシン。数値計算はほとんど独学でマスターした。

デザイン、プログラミング、加工、刃物成型、金型づくり、知的所有権申請すべて一人でやっている。こうしてミクロン単位の精度のパターが出来上がった。

ゴルフの世界は感情論が多くを占める。「気合いを入れろ」などとね。それだけ心理的なスポーツな

のだろうが、パッティングに精神論はいらない。

### 山田式「完全縦振り子理論」

ここで新たな命題に突き当たった。「高精度なパターがイコール入るパターではない。入らないのはなぜか」という命題に。言い換えれば、「2寸以内が確実に入るストローク法の確立」。弾き出した数値、ゴルファーとしての経験から得た結論は「ストローク中にフェース面が左右に1.5度以上開いたら2寸先のカップの幅には収まらない。スクエアヒットしかない。ほかにどんな理屈、理論も通用しない。いくらパターの構造を最高度に工夫しても打法が的確でなければ確実には入らない」と。その理論を証明するため、フェースの向きが狂わず、ストロークのエネルギーが正しく伝わる打法を求めてロボットを使って解析、そうして手元にはなにもさせず、左背中を下げる・上げるだけの完全縦振り子の打ち方と、その動きを修得するためのパッティングストローク矯正機「ドリーム54」を開発した。

パター本体ばかりが話題になっ

ているが、この打ち方と練習器具こそが、「球転がり良く、球足が伸びカップ目指して直線的に狙っていける、2寸以内を確実に入れる」本質だ。山田製の矯正機は韓国の選手に多く使われている。その結果は成績となって現れている。

理論ですべて解決しようとするに、それでは面白くない、まるでロボットがやっているみたい、無機質、システムテックと言うかもしれないが、そうではない。良いスコアを出せばだれでも喜ぶでしょう。その喜びを提供したい、と山田氏は語る。

もはやパターづくりの職人というよりはパッティングコーディネーターだ。パッティング理論を確立し、矯正機をつくり、その上でパターをつくる哲学だ。

半導体や精密機器をつくっている業界からみれば、私の仕事は小さなモノづくりにしか過ぎない。でも、必需品だけがモノではない。人生を楽しむためにゴルフはあり、そのひとつの道具を手掛けていることに誇りを持つ。国内外のゴルファーが私の手づくりのパターとパッティング理論で喜びを持ってくれればいい。夢はそれでゴルフ殿堂入りすることだ。

メイド・イン・ジャパンの魂を伝えるためオバマ氏の名前を刻印した「エンペラー」を、あらためて外務省を通じて届けることにしている。

(有)山田パター工房 創業1986年、資本金950万円。山田透代表(58) 山形市南栄町2-13-16 ☎674-8785。 [yamada-putter@dream.jp](mailto:yamada-putter@dream.jp)



国内外のゴルファーが私の手づくりのパターとパッティング理論で喜びを持ってくれれば、と語る山田氏。自らプログラミングしたマシニングセンター・マシンの前で。